

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 4/7 日付 **ベルブホール** (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

アキ・カウリスマキ 監督最新作品

THE OTHER SIDE OF HOPE

希望のかなた



©SPUTNIC OY, 2017

トークゲスト

藤えりか氏 (朝日新聞記者)

1993年、朝日新聞社に入社。経済部や国際報道部などを経て2011～14年にロサンゼルス支局長、ラテンアメリカを含む大統領選から事件にIT、映画界まで取材。2014年から「GLOBE」記者。世界の映画人に政治や社会について斬り込むシネマニアレポートをGLOBEウェブ版で連載中。映画好きが高じて脚本を学んだことも。著書に『なぜメルル・ストリープはトランプに噛みつき、オリバー・ストーンは期待するのか～ハリウッドからアメリカが見える』(幻冬舎新書)。読者と語る「シネマニア・サロン」を主宰。ツイッターは@erika_asahi

森下詩子氏 (kinologue 主宰)

独立系映画配給・宣伝会社で、宣伝担当として100本近い映画に携わる。2011年よりワークショップ・プロジェクト「kinologue (キノログ)」を主宰し、東京・南相馬・ヘルシンキ・鎌倉・玉島等にて、2017年10月までに計26回開催。2014年よりフリーランスで北欧に特化した映画配給を始め、フィンランド映画『365日のシンプルライフ』、『劇場版 ムーミン谷の彗星 パペット・アニメーション』、『ファブリックの女王』を共同配給。現在、アイスランドのクラフト・アート・ドキュメンタリー『YARN 人生を彩る糸』が全国公開中。

◇◇◇◇◇ 『希望のかなた』 上映に寄せて ◇◇◇◇◇

出会わなければ始まらなかった物語を、丁寧に生きていきたいものである。

ユーロスペースで本作を観て数週間後に浮かんだのは「It's a small world」(小さな世界)のメロディであった。グレートで偉大な国家観・世界観がニュースのヘッドラインを日々ぎやかしているいま、小さな世界の住人として何を大切にすべきだろうか？

想像を掻き立てる本作の、静かながらも力強い意志をぜひ多くの方々に感じ取っていただきたいと思う。(一方でグローバリズムがもたらす課題も多いが、それらを後回しにせざるを得ないような現在の状況なのではないだろうか？)

カウリスマキ監督らしい演出で、時おり微笑ましく(もしかすると吹いてしまうくらいかも)。音楽、サビがよく効いている。映像のトーンも、どちらかというところと寓話的な雰囲気。(渉)

先日、たまたま故郷へ帰省する機会を得たのだが、そのたびに懐かしさに胸を打たれる。そんな心の拠り所である故郷を紛争によって追われた男・カーリドが、流浪の末に遠く離れたヨーロッパの北の地へとたどり着くところから物語は始まる。

平和裏に生きている我々には一見なかなか想像に及びにくい境遇かもしれないが、実はこの日本にも自然災害や米軍基地建設、原発事故などさまざまな事情で否応なしに故郷を失った人たちが少なからずいることは見落とされがちだ。カーリドはあなた自身ではなくともあなたの周りの人たちではあるかもしれない。そんなふうに観ていただければ、この遠い世界の話ももう少し身近に感じられるのではないだろうか。縁もゆかりもないかの地で彼は、さまざまな人々と出会う。厚意を与えてくれる者、悪意をぶつけてくる者——そのとき、あなたならどうしますか？ (中原)

希望のかなたとあわせて観たいおすすめ映画

映画祭HP内「TAMA CINEMA 通信」にて公開中の「『希望のかなた』とあわせて観たいおすすめ映画12選」※から5つの紹介文を掲載します。※<http://www.tamaeiga.org/feature/011.php>

『浮き雲』

(監督：アキ・カウリスマキ / 原題：Kauas pilvet karkaavat
1996年 / 96分 / フィンランド)

中年の夫婦が不況のなかで失業し、色々な目に遭いながらも、もう一度人生を立て直すというストーリー。ただし、そこは、カウリスマキ監督作品であり、一筋縄ではいかない独特のユーモアで描かれている。

この作品の背景は「レストラン」だが、カウリスマキ作品には数々の印象的な食事のシーンがある。『コントラクトキラー』の孤独な男の食事、『過去のない男』の記憶喪失の男が提供されたスープ、『ル・アーヴルの靴みがき』の靴磨きのお弁当。「食べて、飲んで、歌う」が彼の作品に頻繁に出てくるのは、酔いどれのカウリスマキ監督にとっても、これらが生きる糧といえるからかもしれない。「Motto Wasabi!」――。

ちなみに『浮き雲』は、初期から出演してきた「カウリスマキ作品の顔」ともいえる、若くして亡くなったマッティ・ペロンパーに捧げられている。(彰)

『地中海』

(監督：ジョナス・カルピニャーノ / 原題：Mediterranea / 2015年
107分 / イタリア、フランス、アメリカ、ドイツ、カタール)

アフリカ・ブルキナファソの青年2人は、より良い生活を求めてヨーロッパに向かう。命を賭けてボートで地中海を渡り、イタリア南部にたどり着くことに成功するが、待ち受けていたのは夢見ていたものとは異なる厳しい現実だった……。

撮影場所近くに数年住み込んで構想を練り、移民という問題にリアルな演出で迫るのは、これが長編デビュー作のNY出身のカルピニャーノ監督で、カンヌ国際映画祭2015批評家週間に出品されたのをはじめ各国で多くの賞を受けた。

日本ではイタリア映画祭2016で上映、イタリア映画祭2018にて新作が上映されることを受け、本年5月4日に1回のみアンコール上映がある。(ふ)

『シェイプ・オブ・ウォーター』

(監督：ギレルモ・デル・トロ / 原題：The Shape of Water / 2017年 / 123分 / アメリカ)

冷戦時代のアメリカ。トラウマで言葉を話せないライザは、清掃員をしていた政府の研究所で出会った不思議な生物と心を通わせていくが……。『希望のかなた』では家庭と事業に失敗した老紳士がシリア難民の青年に共感して手を差し伸べるが、こちらではトラウマを抱える女性が暴力にさらされる異形の存在に共感し、恋に落ちる。どちらも共感と行動が物語のキーポイントとなっており、またどちらも海のある町が舞台という点も共通している。ゆらめいて不確かな水面をのぞきこみ、かなたに思いをめぐらせることが他者との共生の第一歩なのだろう。(理)

『ストレンジャー・ザン・パラダイス』

(監督：ジム・ジャームッシュ / 原題：Stranger than paradise
1984年 / 90分 / アメリカ、西ドイツ)

NYに住むウィリーのもとにブダペストから従姉妹のエヴァがやって来る。ウィリーの部屋、クリーブランドの叔母の家、フロリダのモーターの3部からなる映画で、大したことは起こらない。モノクロで1シーン1ショット、そして黒味。この繰り返しで撮られている。途中、競馬の話で馬の名前を挙げていくといつの間にか、“晩春”、“出来ごころ”、“東京物語”と小津の映画の題名に。デッドパン映画でもある。

さらにインタビューでジャームッシュは、第1に僕は出世を目指している人の映画を撮ることに興味がなく、僕のどの映画にもテーマとしてあるのが出世主義の外側にいる人たちなんだ、と言っている。

そして彼はカウリスマキ作品に顔を出している。本作は彼の初期のもので、最新作は『パターンソン』である。(小)

『パディントン』『パディントン2』

(監督：ポール・キング / 原題：Paddington / 2015年 / 95分
イギリス)

(監督：ポール・キング / 原題：Paddington2 / 2017年 / 104分
イギリス、フランス)

はじめは可愛い子ども映画と思っていたのだが、難民映画という視点で観ると、そうとしか思えないくらい裏テーマとして「異質なものと共存」が据えられている。大人が観ても考えさせられる映画だ。

子グマのパディントンは“暗黒の地ベルー”から、ロンドンに素敵な街だと信じて疑わず、たった一人で“密入国”する。首には叔母クマがつくった「このクマをよろしく」の札をかけて。しかしパディントンを待ち受けていたのは想像とは異なるロンドンの人々、社会であった。

拒絶されたり危険な目にあったりしながらも、正しく行動しようとするパディントンが人々に受け入れられていく様子からは「異質なもの」とそれを受け入れる側の両方の気持ちがずっと入ってきて、難民問題の本質が垣間見えるような気がする。(N.O.)

新作 レビュー

『彼の見つめる先に』 新宿シネマカリテほか絶賛公開中

2014年/ブラジル/96分/原題：Hoje Eu Quero Voltar Sozinho

監督・脚本：ダニエル・ヒベイロ/配給：デジタルSKIPステーション、アーク・フィルムズ

出演：ジュレルメ・ロボ、ファビオ・アウディ、テス・アモリン、ルシア・ホマノ、エウシー・デ・ソウザ

ストーリー

視覚障害を持つレオナルド（ロボ）。クラスの悪ガキにからかわれたりもするがごく普通の若者である。幼なじみのジョバンナ（アモリン）は、そんな目の見えない彼をいつも支えていた。ある日、クラスに転校生のガブリエル（アウディ）がやってきた。偏見を持たない彼はレオナルドと友人になり、それぞれの関係に変化が訪れる。



コメント

誰しも何かの属性を背負って、あるいは背負わされて生きている。国籍であったり、セクシャリティに関する事であったり、ハンディキャップであったり——。それがありふれたものなら目立つことも無いが、そうではない場合は周囲に戸惑いや偏見を生み出すことも少なくないだろう。

この物語の主人公は少数派に属している。それも幾層にか渡って。だがこの物語に出てくるのは括弧付きの「マイノリティ」ではなく、「わたし」と「あなた」でしかない。笑ったり、悩んだりするごく普通の若者である「わたし」と「あなた」だ。終盤の手を取り合うことで訪れるささやかな勝利はマイノリティの勝利でもあるが誰にでも訪れるわたしたちの勝利でもあるのだ。

第64回ベルリン国際映画祭パノラマ部門で上映され、FIPRESCI賞（国際批評家連盟賞）とテディ賞（LGBTを扱った作品に授与される賞）の2冠に輝いたブラジル映画。劇中でかかる印象的な曲にベル・アンド・セバスチャンが使われている。（松光）

*本レビューは、第25回映画祭（2015年）のプログラム「彼らの過ごした夏の時間 - THE MYTH OF TEEN MOVIES -」にて本作が上映された際に書かれた文章です。

上映会 レポート

3/18(土) ベルブホール

大宮浩一 監督作品

もやってる 夜間保育園

TAMA 映画フォーラム今期第一回目の特別上映会。夜間保育園という聞きなれない保育園をテーマにした大宮浩一監督久しぶりのドキュメンタリー映画上映でした。

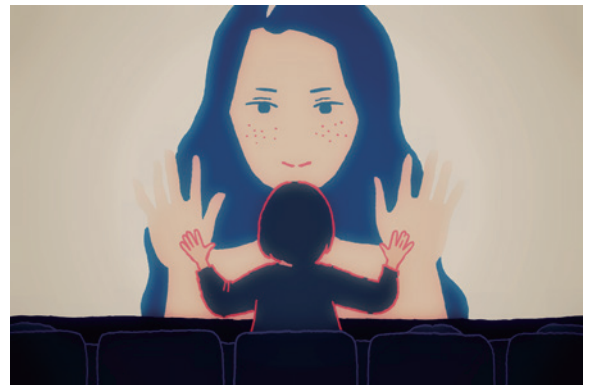
赤ちゃんも含め、子どもたちと一緒に鑑賞してもらえるように一回目の上映は階段席を取り払いフラットな床での上映。サポートに付いた保育士やスタッフの協力の下、子どもたちが遊びながらの上映会。こんな鑑賞が普通になればいいなあと思わせる回でした。二回目以降は席を戻して通常の上映会。テーマが保育園だったので若い子育てママやパパの観客が多いかと思いましたが、学生や高齢者の方々まんべんなく広い世代に渡っての鑑賞でした。

ゲストトークは永山公民館が主催する「子供の人權」をテーマに、大宮監督、ハンズオン埼玉理事の西川正氏、特定非営利活動法人どんぐりパン理事長の篠崎裕子氏、かしのき保育園の近藤直恵氏の方々に語っていただきました。それぞれの立ち位置からのトークなので、今置かれている子どもたちの状況が生々しく語られ、上映した作品の背景が強く浮き出る内容でした。特に大宮監督が「夜間保育園は必要ないと思っています」という言葉にはこの作品を作られた者ならではの重みがありました。いくつかの実験もした上映会でしたが、今期の特別上映会の口開けとして相応しい結果を残したと思いました。（竹内）



次回特別上映会は5月5日(土)に「女の子よカメラを持とう × TAMA CINEMA FORUM ～映画の中の私たち～」として、次世代を担う若手映画監督レナ・ダナムの長編映画デビュー作品『タイニー・ファニチャー』、山戸結希監督の監督デビュー作『あの娘が海辺で踊ってる』『おとぎ話みたい』ほかを上映いたします。

上映後にはゲストに山戸結希監督、金原由佳氏(映画ジャーナリスト)、宇野維正氏(映画・音楽ジャーナリスト)を迎え、トークを行います。ぜひご来場ください。



Illust: 都築彩花

お知らせコーナー

実行委員募集説明会を行います

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2018年11月17日～11月25日に開催予定の第28回映画祭 TAMA CINEMA FORUM を一緒に作る実行委員を募集しています！興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか？

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい...など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

4月15日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。詳細はホームページをご覧ください。

支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えていただける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポートを！ご支援いただいた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願いいたします。

[支援金寄付 個人会員] 一口1,000円

郵便振替番号 00160 - 5 - 541123 加入者名 TAMA 映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①：映画祭チラシ送付

特典②：映画祭パンフレット贈呈

特典③：特別上映会割引(当日チケットを支援会員特別価格に！上映会は2～8月の間に4～5回開催予定です)

※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

@tamaeiga (最新情報をフォロー) www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね！」で参加)